

「やってみよう！」を本人の中に位置づける ～経験学習理論をもとにキャリア発達を促す自己サイクルの根を～

○森 玲央名(就労移行支援事業所INCOP京都九条)
日下部 隆則(同上)

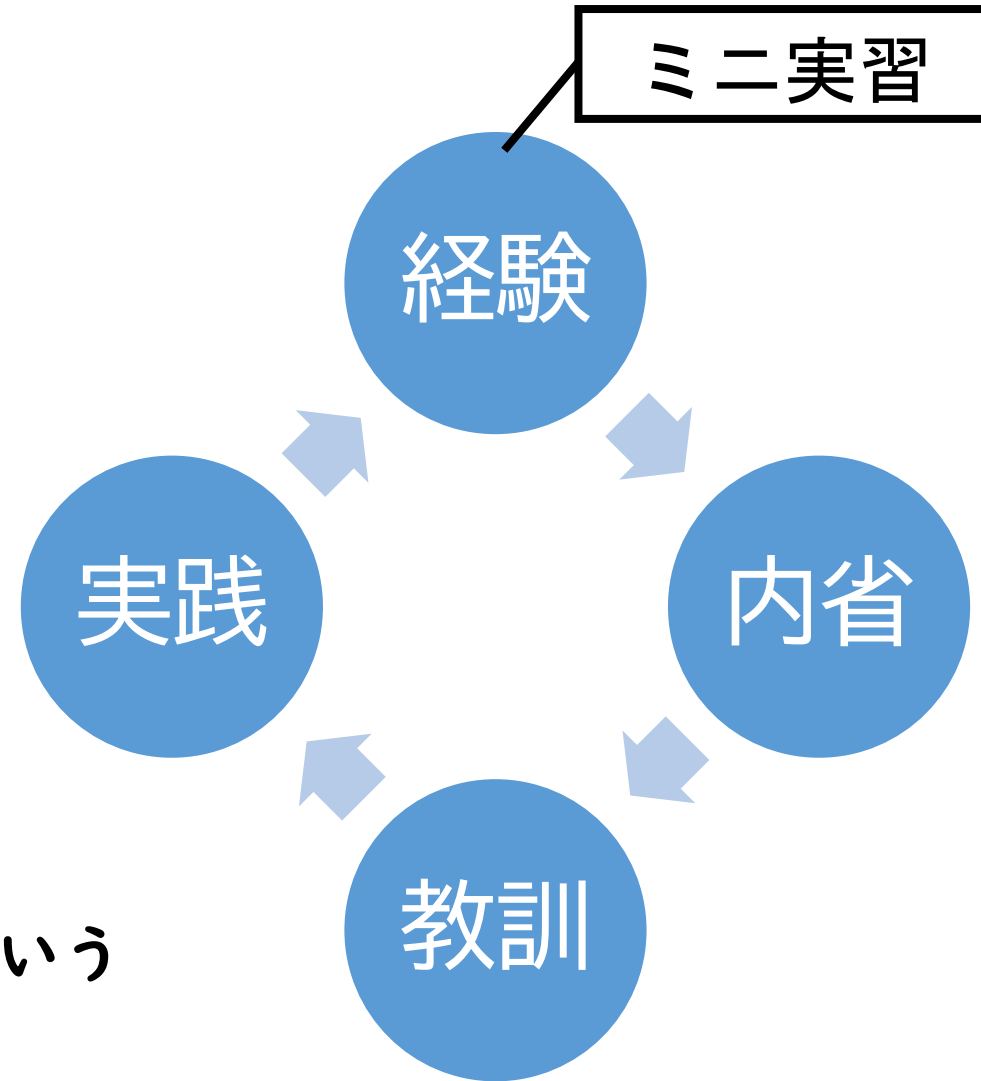
就労移行支援事業所INCOP京都九条

- 2023年2月に開所
- 社訓「やってみよう！」
- 「ミニ実習」が大きな軸の「超実践型トレーニング」
- 就労だけでなく「WorkとLifeのINCOP」



ミニ実習と経験学習サイクル

経験学習理論における
経験学習サイクルでは、
『ミニ実習』が『経験』
その『経験』を
実習の振り返りという
『内省』によって、
『教訓』に昇華し
『実践』へつなげ、
新たな
『ミニ実習』＝『経験』という
スパイラルを回す



KPT法を応用した『内省支援紙』

- 『内省』の支援
KPT法を取り入れた
『内省支援紙』を作成
- K(Keep)P(Problem)T(Try)の
前段階として
r(気づきrealize)と
f(気持ちfeeling)を追加
- 書き出したrf-KPTをもとに
対話をおこない
『経験』を深く『内省』し、
『教訓』や次のハードル・
目標を導くことを目的とする

リフレクシオンシート (内省支援紙)

氏名	場面	内省対象期間
----	----	--------

今日のハードル (目標設定)

	自己評価	他者評価
--	------	------

rf-KPT

気づき(realize)	気持ち(feeling)
やまていふこと・続けるべきこと(Keep)	
課題点(Problem)	
次に試したいこと(Try)	

次のハードル (次の目標)

--

『経験』を本人の夢・希望と つなぐ『将来航路図』

- 一つ一つの経験学習サイクルを
本人の夢や希望に関連付けて
いくために、PATHを簡略化した
『将来航路図』を作成
- 本人と対話しながら
夢・希望と今の実態を
つなぐ支援紙として活用
- 『内省支援紙』と
KPを共通の項目としている
- 就労意向は
定期的に記入している
『就労意向調査』用紙と
項目を共通化

将来航路図

PATH — Planning Alternative Tomorrow with Hopes よりよい未来のための計画

作成日:
氏 名:

あなたの希望・夢

あなたの就労の意向

いつ頃から働きたいか	就業希望時間	時間	日/週
希望する業種	希望する作業		
選択理由 (「1」から「5」まで)	仕事内容	通勤	賃金
	勤務環境	休日曜日	福利厚生
	その他		

求められる力(希望・夢-就労を実現するために)

すべきこと(①に当てはまるために)

目標	あなたができること	支援すること

あなたの今の状況(状態)(②に対応した)
keep(できていること・続けること)

problems(課題)

実施による成果と課題

- 経験学習モデル、経験学習サイクルを意識することで、“INCOP”の“やってみよう”の効果がさらに広がる手ごたえを感じている。
- そのためには『経験』『実践』とともに、そこでどのような自己理解を得ているのか、またそこからどのような『将来設計』をしているのかを言語化を通して把握していくことが大変重要になる。

今後の展望

- 利用者の願いや実態を把握しながら、個々の特性や性格などに応じて、効果的なタイミングで『内省』と『将来設計』に取り組み、『いま、なんのために、“INCOP”に来ているのか』をしっかりと共有しながら、主体的に就労に向かって行動できるような支援を今後も心掛けていきたい